

土着天敵を活用したカキ害虫の I P M (総合防除) 体系

病害虫部

1 背景、目的

カキにはいろいろな害虫が発生しますが、一番問題になっているのはフジコナカイガラムシです。病害虫部ではこれまでに、カキのフジコナカイガラムシには有力な土着天敵が存在することを明らかにしました。また、主要な天敵である寄生蜂（フジコナカイガラクロバチ）の特性や、カキで使用する主な薬剤が天敵に及ぼす影響を解明しました。

そこで、これらの成果を基に、フジコナカイガラムシの土着天敵をうまく活用しながら他の害虫の被害も防ぐことができるカキ害虫の I P M 体系を開発しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) I P M 体系を農家のカキ園で 3 年間実証しましたが、いずれの年もフジコナカイガラムシによる果実の被害が慣行防除したカキ園に比べて低くなりました。また、本体系ではフジコナカイガラムシ以外の害虫によるカキの被害も増加しません。
- 2) I P M 体系は、6 月のフジコナカイガラムシ第 1 世代までは薬剤防除で害虫の密度を抑え、第 2 世代以降は土着天敵の働きで害虫の増加を防ぐことにより果実の被害軽減を図るもので、第 2 世代以降の幼虫に対する寄生蜂の寄生率も高くなります。
- 3) I P M 体系では殺虫剤散布回数が慣行防除体系より少なく、試算では殺虫剤の経費も 10a 当たり 2000 ~ 6000 円安くなります。

3 主要なデータなど

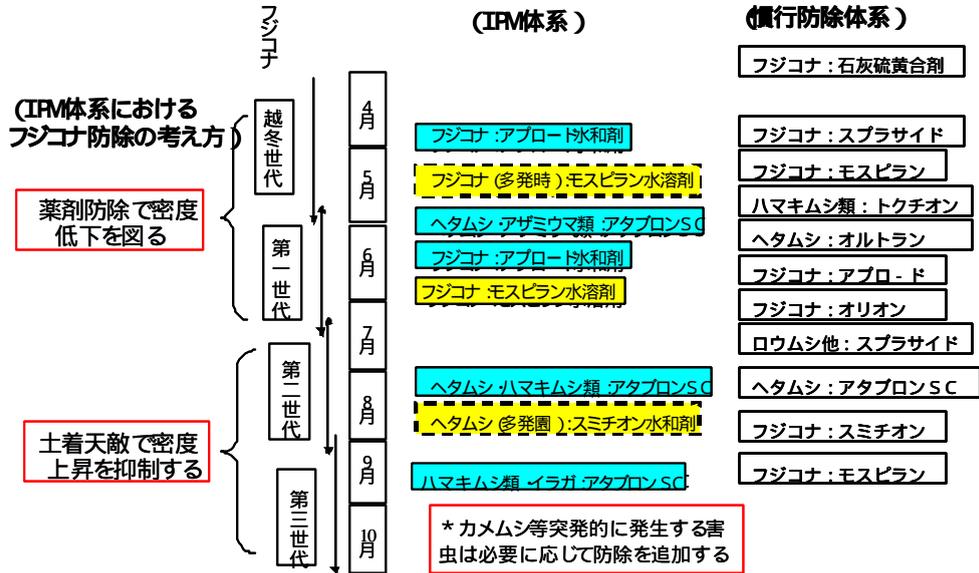


図1 土着天敵を活用するカキのIPM体系

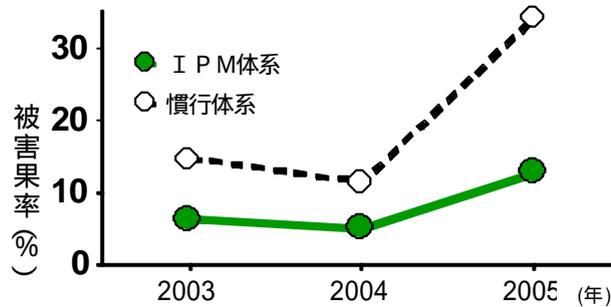


図2 IPM体系におけるフジコナカイガラムシによる被害果率

表1 IPM体系における第2世代以降のフジコナカイガラムシ幼虫に対するフジコナカイガラクロバチの寄生率

区分	若齢幼虫の被寄生率 (%)		
	2003年	2004年	2005年
IPM体系	76.0	72.2	27.8
慣行防除体系	58.8	15.0	22.2